

## V 基準ごとの自己評価

### 『理念と目標』

#### 1 理念と目標

##### 基準 1-1

各大学独自の工夫により、医療人としての薬剤師に必要な学識及びその応用能力並びに薬剤師としての倫理観と使命感を身につけるための教育・研究の理念と目標が設定され、公表されていること。

- 【観点 1-1-1】 理念と目標が、医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズ、学生のニーズを適確に反映したものとなっていること。
- 【観点 1-1-2】 理念と目標が、教職員及び学生に周知・理解され、かつ広く社会に公表されていること。
- 【観点 1-1-3】 資格試験合格のみを目指した教育に偏重せず、卒業研究等を通じて深い学識及びその応用能力等を身に付けるための取組が行われていること。

##### [現状]

薬学が近縁の理系の学問とその領域を異にするのは、医療に直接繋がるという特性においてである。したがって、薬学教育は「医療を必要とする人＝患者」を常に意識した教育でなければならない。薬科大学が社会から付託されている最も重要な役割は「医療を通じて社会に貢献できる薬剤師の育成」である。これを本学薬学科（6年制）教育の理念と目的の基本とし、生命科学をはじめとする薬学の基礎的知識と理解力の上に乗って医療知識・技能を修得し、さらには強く正しい医療倫理観と使命感をもつ情操豊かな医療人としての薬剤師を育成することに努めている。

さらに、こうした教育目標のもと、高度医療への適応力、柔軟なバランス感覚、チーム医療に求められる協調性を育み信頼される薬剤師が輩出することを期待している。

こうした理念と目標を実現するための教育プログラムの作成に当たっては、薬学科を「薬が生体に及ぼす諸現象を総合的に科学する学科」と位置付け、低年次では薬と生体との関連を有機的・体系的に学ばせ、中年次では医薬品の適用と効能、医薬品情報とその管理など、薬剤師に必要な専門知識を基礎から理解させるとともに、高年次においては医療現場で薬剤師に求められる高度の医療知識と技能を修得させるよう、それぞれの授業科目が、効果的な年次配当で組み込まれている。すなわち、本学のカリキュラムは「薬学教育モデ

ル・コアカリキュラム」ならびに「実務実習モデル・コアカリキュラム」に示された内容を中心に、薬学を学ぶための基盤となる授業科目を大きく「基礎教育科目」、「基礎薬学科目」、「応用薬学科目」、「医療薬学科目」の4グループに分け、各グループ内の授業科目は、1年次～5年次にわたってその重心を移しながら講義するとともに、それに対応する必要な技能を演習・実習を通して修得させるよう組み立てられている（表 1-1-1）。

「基礎教育科目」と「基礎薬学科目」は豊かな教養と薬学の確かな基礎学力を身に付けさせることを、また、「応用薬学科目」と「医療薬学科目」は薬の作用・副作用を含む医療薬学領域の知識を広く修得させるとともに、実務に関する教育を十分に行って医療人となることへの自覚と人格を備えた薬剤師を養成することを目的として設けられている。一方、真の薬剤師育成には薬学領域における実践的な研究を経験させ、問題解決能力を醸成することが重要である。そのため、5、6年次では学生を各研究室に配属させ、「特別演習・実習」（卒業研究）に取り組ませ、卒業時にはその成果の報告を義務付けている。

本学の教育・研究理念と目標およびそのための教育方針の教員への周知は、教授会や拡大教授会で図られるとともに、具体的な方策を最適化するための議論を継続している。これらの理念や目標は、オープンキャンパス、入学説明会、あるいは企業・病院・薬局関係者を対象とする職種説明会等で公開し、本学の教育・研究理念とその目標達成のための取り組みを広く理解してもらえるように努めている。さらに、学生に対しては、各教員が、日常の講義や演習、実習の他、アドバイザーとしての学生への対応や、各種委員会委員としての活動を通じて、周知を図っている。また、これら授業科目の本学の教育・研究理念に対する位置づけ・意義づけは、授業科目のシラバスで明確にしてまとめ、冊子「授業の内容」として学生に配付して周知・理解させることに努めている。また広く一般に周知するための方策の一つとして、Web サイトにも掲載している。

#### [点検・評価]

1. 本学の教育理念と目標は明確に設定されている。現行の講義・演習・実習・実務実習・卒業研究体系はこれを効率よく具現化するために編成されており、この教育プログラム

は薬剤師に対する社会のニーズや学生のニーズを反映させるに十分な内容であると考  
えている。

2. 学生は、学年進行とともに、各授業科目の意義や位置付けの意識が薄れ、単位を修得  
することに専念する傾向が見られる。そこで、教育理念と目標に対する各授業科目の位  
置付けについては定期的に再認識させる必要がある。

3. 問題解決能力を醸成することの重要性から、5、6年次で18単位の卒業研究を義務  
付けており、1年次からの教育プログラムの組み立てにおいても資格試験合格のみを目  
指した教育に偏重することの無いように努めている点は、本学の特徴である。

#### [改善計画]

最初の6年制教育が完成年度を迎えた段階で、カリキュラムの内容、学生の評価、進級  
状況および専門知識の量的・レベル的妥当性、倫理観等も加味した総合的検証を行い、現  
行カリキュラムの教育理念と目標に大きく影響していないことを前提に、改訂教育プログ  
ラムを施行するべく現在準備している段階である。

表 1-1-1 平成18年度 薬学科(6年課程)カリキュラム

平成18年度 薬学科(6年課程)カリキュラム

	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次								
	前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期		前期	後期							
基礎教育	人間と文化1a (人間と社会)	人間と文化1c (人間と社会)	1	人間と文化4a (人間と文化)	1	異文化言語演習1	1	異文化言語演習2	1															
	人間と文化1b (人間と心理)	人間と文化1d (人間と社会)	1	人間と文化4b (女性学)	1																			
	数学1	人間と文化2	1	数理統計学	1	人間と文化4d (人間と動物)	1																	
	基礎物理学1	人間と文化3	1	英語3	1	英語4	1																	
	英語1	数学2	1	ドイツ語4 フランス語4	1																			
	ドイツ語1 フランス語1	基礎物理学2	1																					
	ドイツ語2 フランス語2	基礎物理学3	1																					
	健康科学演習 フランス語3	ドイツ語3 フランス語3	1																					
	情報科学演習	健康科学	1																					
	化学演習	情報科学	1																					
基礎薬学	基礎細胞生物学1	基礎細胞生物学2	1																					
	薬学/医学概論	有機化学1	0.5	有機化学2	1	有機化学3	1	有機化学4	1															
	基礎有機化学	機能形態学1	1	機能形態学2	1	有機スベクトル 解析学	1	免疫学	1															
	薬用植物学	分析化学	1	物理化学1	1	物理化学2	1	物理化学	1															
				生化学1	1	生化学2	1	生化学3	1															
				機器分析学	1	放射化学	1																	
				生物無機化学	1																			
				微生物学	1																			
				生薬学1	1.5	衛生薬学2	1.5	衛生薬学3	1.5	衛生薬学4	1.5	薬理薬理法・制度	1.5	薬学英語	1.5	薬学英語	1.5							
応用薬学			衛生薬学2	1.5	薬理学1	1.5	薬理学2	1.5	薬理学3	1.5	薬理学4	1.5	薬理薬理法・制度	1.5	薬学英語	1.5	薬学英語	1.5						
			病態生理学	1	病態生理学1	1	病態生理学2	1	病態生理学3	1	病態生理学4	1	薬用天然物化学	1.5	薬用天然物化学	1.5	応用分子生物学	1.5	応用分子生物学					
医療薬学	早期体験学習1	早期体験学習2	1																					
実習	基礎薬学実習	基礎有機化学実習	0.5	分析化学実習	1	生薬学実習	0.5	有機化学実習	1	衛生薬学実習	1	衛生薬学実習	1	衛生薬学実習	1	衛生薬学実習	1	衛生薬学実習	1					
		生物化学実習	1			物理・放射化学実習	1	生物科学実習	1	薬理学実習	1	薬理学実習	1	薬理学実習	1	薬理学実習	1	薬理学実習	1					
合計	17 科目	15.5	17 科目	17	15 科目	16	16 科目	18	15 科目	18.5	16 科目	21	16 科目	24.5	8 科目	11	4 科目	2.5	2 科目	20	7 科目	23.5	2 科目	12

※「ドイツ語」「フランス語」は、選択必修 青文字は選択科目

## 基準 1-2

理念と目標に合致した教育が具体的に行われていること。

【観点 1-2-1】目標の達成度が、学生の学業成績及び在籍状況並びに卒業者の進路及び活動状況、その他必要な事項を総合的に勘案して判断されていること。

[現状]

本学の薬学科（6年制）の教育目標は、保険薬局現場のみならず、臨床現場での高度医療とチーム医療に貢献できる、柔軟でバランス感覚に優れ、医療人として信頼される薬剤師の育成にある。そのため、生命科学の基礎知識と理解力を十分に養うと共に、高度医療に対する知識・技能の修得はいうまでもなく、情意・医療倫理観・仁愛観を加味した情操教育にも力を注ぐと共に問題解決能力を養成する教育を行うことを教育理念としている。

薬学科は、薬が生体に及ぼす諸現象を総合的に科学する学科と位置付ける。そのため、薬と生体との関連を有機的・体系的に学び、医薬品の効能・効果・副作用、医薬品情報とその管理など、必要な専門知識を基礎から理解させ、人々の健康や医療に貢献できる薬剤師を育成するための教育プログラムを、効果的な教育年次を考慮して、実践している。すなわち、1～3年次科目では医療人となることを自覚させるとともに、豊かな教養と薬学の確かな基礎学力と理解力を身に付けさせ、4～6年次科目では医療薬学領域の知識と技能を広く修得させるとともに、実務に関する教育を十分に受けさせ、医療人となることへの自覚と人格を備えた薬剤師を育成するためのカリキュラム編成がなされている。(表 1-1-1)

本学の目指す薬剤師育成の基盤となる授業科目を「基礎教育科目」、「基礎薬学科目」、「応用薬学科目」、「医療薬学科目」の4グループに分け、学年の進行とともにこれら授業科目の主な配当学年を順次移しながら6年間にわたって教育し、各科目の意義と重要性を学生に的確に把握させると共に、必要な技能を演習・実習を通して修得させる。

具体的には、1年次における「基礎教育科目」(23科目、3演習・1実習)では、主に、物理・化学・生物を始め薬学教育に不可欠な基礎学力を養うための授業科目に加え、人間

性と倫理性を高める教養を身につけ、医療人としての自覚と倫理を涵養するための授業科目（5科目）を選択必修として設定し、また、薬剤師としての専門性を早期に体験させる目的で「薬学／医学概論」の講義に加え、本学附属薬局、その他の病院・薬局の見学を含む「早期体験学習1、2」を設定した。なお、一部の「基礎薬学科目」（6科目、2実習）の教育も開始する。2年次には、「基礎教育科目」（9科目）に加え、分析化学、物理化学、生化学を始め専門薬学を学ぶ上での基盤となる「基礎薬学科目」（12科目、2実習）を中心とした教育が行われる。3年次では「応用薬学科目」（10科目、1演習、1実習）とともに医療に繋がる薬学専門教育の基礎的重要事項を学ぶ「医療薬学科目」（10科目、1実習）を中心とした教育が行われる。4年次では「応用薬学科目」（6科目）に加えて薬剤師として不可欠な医療コミュニケーション学として、「コミュニティファーマシー」、「社会薬学2」を含む「医療薬学科目」（13科目、2演習、3実習）が組み込まれている。また、薬学教育6年制の最重要科目の一つである実務実習（5年次実施）の準備のための「臨床導入実習」を行うとともに、後期にはこの時点までに受けた基礎的な知識と技能に関する授業の修得度の確認を行う「薬学総合演習1、2」が設けられている。一方、薬の専門家としては、創薬に関する知識も必要であるとの配慮から、「生物物理化学」「医薬品化学」や「薬品合成化学2」等の授業科目を選択できるように配慮している。5年次の約半年間は「病院実務実習」（11週間）、「薬局実務実習」（11週間）にあてられる。しかし、残りの期間は、真の薬剤師育成には薬学領域における実践的な研究実験を経験させることの重要性から、「医療薬学科目」（3科目、1演習・実習）に加えて6年次も含めて「特別演習・実習1、2」が設けられている。この特別演習・実習の充実を図ることにより、問題提起・問題解決能力の醸成、チーム医療などにおける協調性の育成、基礎的研究技術の修得、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の発展的能力・応用力を身につけさせることを意図している。「特別演習・実習1、2」については、5年次～6年次の2年間、学生全員を各研究室に配属させ、担当教員による直接の研究・教育指導を受けることになる。また、最終的には、特別演習・実習の成果発表会を実施する。6年次には、「医療薬学科目」（2

科目、2 演習、1 実習) を設け、薬剤師としての素養を高めるとともに、「薬局方総論」の他に学修の総まとめとしての「薬学総合演習 3、4」が設けられている。

現在、新教育課程 4 年次までの教育目標の達成度については、表 1-2-1、表 1-2-1 に示す各年次の学生在籍状況（進級状況）および留年者数から明らかなように、多くの学生は概ね良好な成績を収めて進級している。また、履修内容が学生によって有効に修得されているかを検証するため、授業評価アンケート（講義・演習・実習）を前期、後期毎に、毎年行っている（表 1-2-3、表 1-2-4）。5 段階評価の結果、17 の評価項目（演習・実習は 16 項目）のうち、授業内容を評価する項目の多くは 4.0 以上であった。この結果は、履修カリキュラムが一定以上の教育効果を上げ、本学の教育理念とその目標に合致した教育が行われていることを示すものと判断している。

本学の進級要件は比較的厳しく設定されている。例えば、1 年次配当必修科目のうち、5 科目以上が単位未修得の場合、1 年次から 2 年次への進級は認められていない。2 年次から 3 年次への進級には、その条件に加えて、下位年次（1 年次）の必修科目が 1 科目でも未修得の場合、進級が許可されないことになっている。この進級制度は、本学の教育理念に基づいた薬剤師養成には、教育プログラムに設けられた必修科目は極めて重要であることを学生に十分認識させるために設けられている。したがって、留年率は入学年度によって異なるが、1～4 年次までの学年進行とともにその値は大きくなる傾向がある。留年率が比較的大きいとのコメントも聞かれるが、本学の教育目標の重要性に鑑み、当面この進級要件を維持していく予定である。一方、留年学生のアフターケアに対しては、修学指導委員、教務部委員、アドバイザー教員が協力して、定期的な留年者ガイダンスを行うとともに出席状況を調査し、各学生の教育指導をきめ細かく行うことで、長期留年に陥らないような対策を講じている。

#### [点検・評価]

1. 進級状況と留年者数そして授業評価アンケートの結果から、現行の教育プログラムは

本学の教育理念と目標を達成するために一定の成果を挙げているものと評価できる。

2. 5年次～6年次に設定されている教育内容の評価は今後の結果に委ねられるが、約半年間の「病院実務実習」・「薬局実務実習」（各11週間）以外に、真の薬剤師育成における薬学の実践的な研究実験を経験させることの重要性から、「特別演習・実習1、2」が設けられ、その充実を図ることで問題提起・問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成し、最終的に、本学の目標とする実力のある薬剤師の育成が可能になると期待できる。

#### [改善計画]

これまでに指摘された改善点も含めて、完成年度を迎える平成23年度に全体的な現行教育プログラムの再検討を実施し、必要に応じてその改訂を行う予定である。

表1-2-1 平成21年度 前期授業評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延履修人数	17,331名	5,511名	4,423名	4,202名	3,195名
延回答人数	11,210名	4,251名	2,486名	2,786名	1,687名
回答率	64.7%	77.1%	56.2%	66.3%	52.8%



設 問
1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか。（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか （指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか （休講がなかった場合は0を記入して下さい）
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください （5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる）
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください （5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない）
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか
回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。但し、設問2, 9, 10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

(平均値)

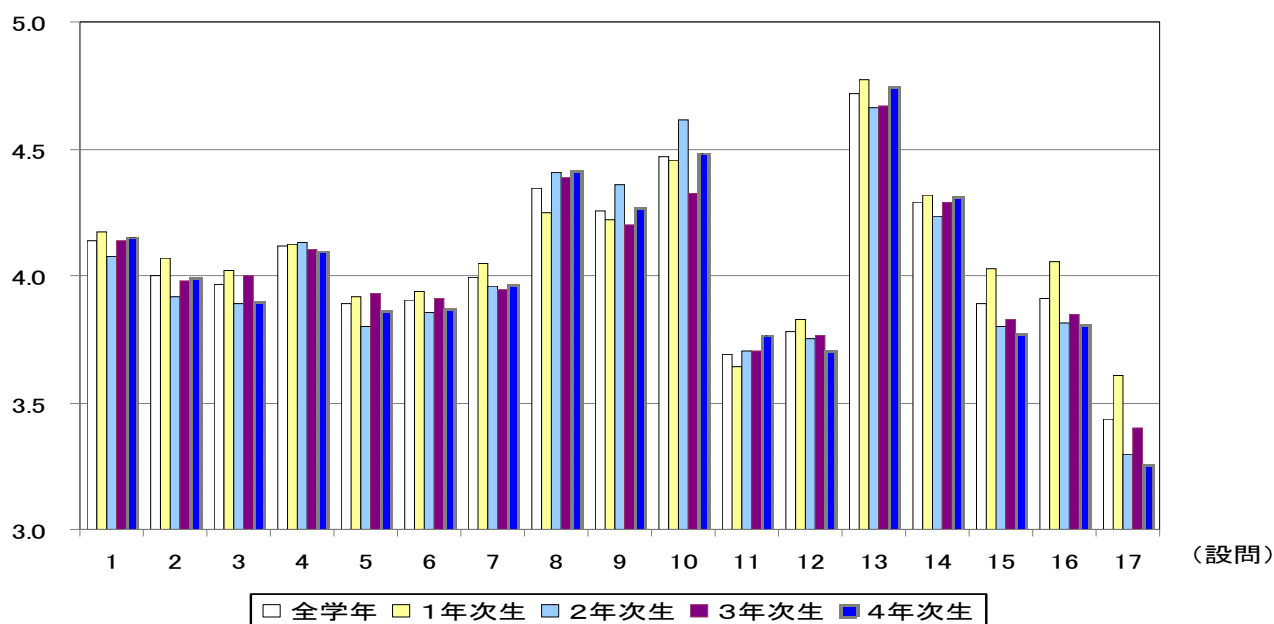


表 1-2-2 平成 21 年度 前期実習・演習評価アンケート集計

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
延履修人数	2,044 名	346 名	358 名	610 名	730 名
延回答人数	1,868 名	316 名	328 名	574 名	650 名
回答率	91.4%	91.3%	91.6%	94.1%	89.0%

設 問
1. 説明が詳しく分かりやすい
2. テキストは良くできている
3. 実習・演習の設備や器具は十分用意されている
4. 興味深い実習・演習である
5. この実習・演習は関連講義の理解に役立っている
6. 安全に関する適切な指導と配慮がなされている
7. 指導に熱意・情熱が感じられる
8. 担当者は疑問や質問に的確に答えてくれる
9. 実習・演習の内容はあなたにとってレベルが適切でしたか。次の基準で回答してください (5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
10. この実習・演習は学習意欲の高揚に役立っている
11. この実習・演習を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください (5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
12. あなたは、この実習・演習によく出席しましたか
13. あなたは、私語などせず実習・演習に集中しましたか
14. この実習・演習を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
15. この実習・演習は、あなたにとって有意義なものでしたか
16. あなた自身、実習・演習を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。  
また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

(平均値)

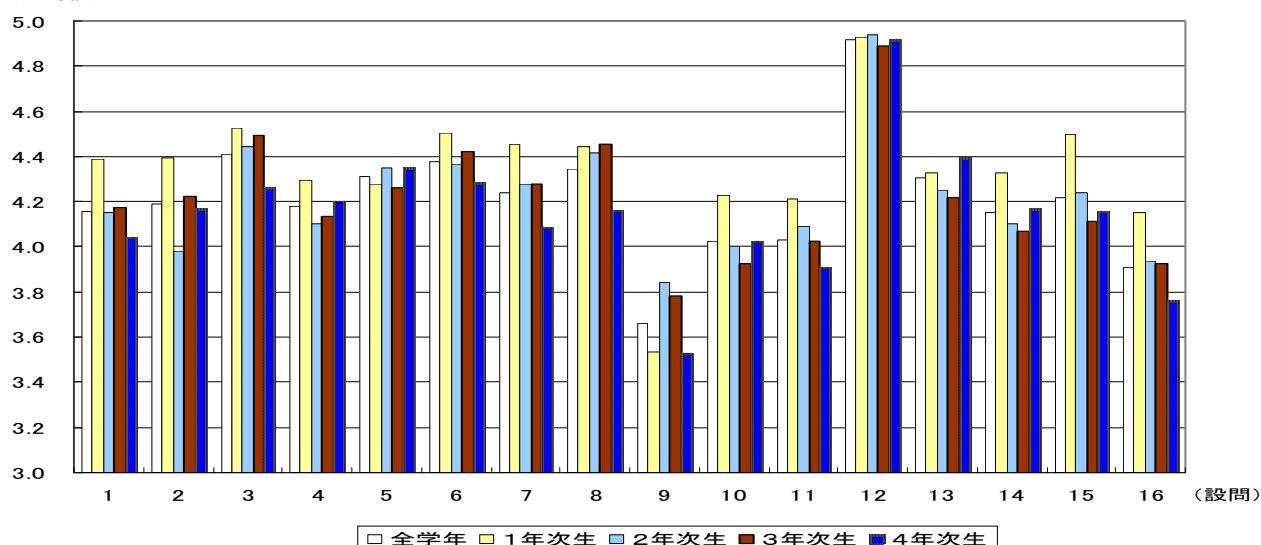


表 1-2-3 在籍学生数の推移（新課程）

	平成 18 年 5 月 1 日	平成 19 年 5 月 1 日	平成 20 年 5 月 1 日	平成 21 年 5 月 1 日
1 年次生	321	319	371	353
2 年次生		305	331 (1)	371
3 年次生			273	333 (1)
4 年次生				243
計	321	624	975 (1)	1,300 (1)

( ) は編入者で内数

表 1-2-4 入学年度別学生数

	平成 18 年 5 月 1 日		平成 19 年 5 月 1 日		平成 20 年 5 月 1 日		平成 21 年 5 月 1 日	
平成 18 年度 入学者	1 年	321	1 年	11	1 年	1	1 年	0
			2 年	305	2 年	41	2 年	7
					3 年	273	3 年	61
							4 年	243
平成 19 年度 入学者			1 年	308	1 年	9	1 年	1
					2 年	289	2 年	20
							3 年	271
平成 20 年度 入学者					1 年	361	1 年	9
							2 年	344
平成 21 年度 入学者							1 年	343